

委託事業実施内容報告書

平成23年度「生活者としての外国人」のための日本語教育事業

【日本語教室の設置運営】

受託団体名 認定非営利活動法人北朝鮮難民救援基金

1 事業の趣旨・目的

日本定住北朝鮮難民が日本社会に定住し共生するため、日本語の体系的学習、並びに基礎的社会ルールや生活習慣の習得が必須であるところ、これを組織的且つ継続的に支援することによって、彼等の一日でも早い、又、よりスムーズな日本社会への定着を実現する。

2 運営委員会の開催について

【概要】

開催日時	開催場所	出席者	議題	会議の概要
平成23年5月24日	「基金」事務所	加藤博外4名	「運営委員会の進め方について」外3議題	別添運営委員会議事録のとおり
同年6月29日	明治大学アカデミーコモンズ	加藤博外3名	「定住支援の現況と課題」外1議題	同上
同年9月10日	JICA 地球ひろば	加藤博外4名	「第2期日本語教室運営の基本方針の確認」外2議題	同上
同年12月19日	同上	同上	「第2期日本語教室運営の終了の確認」外3議題	同上

3 日本語教室の開催について

- ① 講座名 北朝鮮難民定住日本語講座
- ② 開催場所 日本人配偶者後援会・会議室
- ③ 学習目標 日本社会への良き共生者としての円滑な定着
- ④ 使用した教材・リソース 「こんにちは、日本語」、「エリンが挑戦！にほんごできます」、「みんなの日本語」、「新日本語の中級」等の日本語テキスト。又、ニュース、映像、新聞、区役所広報等。
- ⑤ 受講者の募集方法 「基金」が把握している北朝鮮難民情報に基づく個別案内、及び相互間の口コミ情報等
- ⑥ 日本国内外における「基金」機関誌「北朝鮮難民救援基金 NEWS」の配布による広報も実施。但し、「募集のチラシ」は特に作成していない。
- ⑦ 受講者の総数 22人 (延べ人数ではなく、受講した人数を記載すること。)
(出身・国籍別内訳 北朝鮮 17人、中国 5人)
- ⑧ 開催時間数(回数) 120時間 (全60回)

⑨ 日本語教室の具体的内容

別添各回の日本語教室授業報告のとおり。

回	開催日時	時間数	参加人数	国籍・母語(人)	教授者・補助者人数	内容

⑩ 特徴的な授業風景(2～3回分)

第1期(6月29日～9月12日)では初級クラスのみ、第2期(10月14日～12月19日)では初級並びに中級クラスを併設。

基本的に各回2時間の授業であるが、非常に家庭的な雰囲気、或いは和気藹藹とした雰囲気の下、日本語教師の懇切・丁寧な指導が特徴的である。ホワイトボード、又、インターネットも駆使し、全員参加型の授業で、授業中、何人も沈黙することは許されず、終始積極的な言葉の応酬が展開される。

各期、節目となる、例えば年始第1回目の授業では、教師側、又、受講生側からもオヤツや飲料の差し入れがあったり、閉講式の後には近所の中華レストランで解散式を行ったりもした。

教室風景の写真は以下のとおりである。





4 事業に対する評価について

① 当初の学習目標の達成状況

現状では、日本語能力試験を受験できる程の授業時間は確保されていない。しかし、全く話せず、又、聴解できなかった受講生が日々、日本語能力を高め、クラスの雰囲気溶け込んで行っていることは、授業を参観していると、容易に窺い知ることができる。

電車や地下鉄の切符の買い方・乗り方や、病院での受診の受け方等、日常生活の必要

に応じた能力、即ち、「生活者」としての日本語能力を高めていることがわかる。

従って、当初の学習目標が達成されつつあることは確かである。

② 学習者の習得状況

受講生の年齢、過去の日本語習得状況、現在の学習環境等が区々であり、一概に評価することは困難であるが、少なくとも継続して参加している受講生の日本語能力の向上は顕著であり、受講生が業務や家事等の調整を上手くやって、できるだけ多く長く授業に参加することが望まれる。

③ 日本語教室設置運営の効果、成果

参加する受講生達からの時折の感謝の意の表明（「生活の諸々の場面で、実際に役に立つようになった」とのコメント付き）等、日本語教室設置運営の効果、成果は明らかである。

④ 地域の関係者との連携による効果、成果等

教室の場所を提供してもらっている「日本人配偶者後援会」との関係は極めて良好であり、同 NGO を通じて、日本語教室への中国人参加者が続出していた時期もある。その他の地域の関係者となると、近隣は歓楽街や商業地域であり、連携ということは無い。

⑤ 改善点、今後の課題について

現状 仕事（アルバイトを含む）をしている受講生が多いことから、特に夜間業務に従事している受講生の場合、業務上の支障で授業への継続参加が困難となっている。又、教室の場所が歓楽街の一部に属していることから、風紀上、必ずしも良好な雰囲気の出立地とは言えない。

（ア）今後の課題 より多くの受講生が参加できるように、今後とも授業時間の調整が重要である。又、受講生の日本語能力の差が大きいことから、木目細かいクラス分け、可能であれば個別対応、乃至これに極力近い形の授業が望ましい。更に、現在の日本語教師は2人とも男性であり、場所の問題の指摘は少ない。が、受講生の過半は女性で、苛酷な境遇を生き抜いてきた「北朝鮮」からの脱出者ではあるが、より落ち着いた雰囲気の教育環境が望ましい。

（イ）今後の活動予定、展望 諸々の困難を克服しつつ、折角軌道に乗せた「生活者としての外国人」のための日本語教室であることから、今後、更に改善を加えつつ、是非ともこれを継続して行きたい。弱小 NGO として、慢性的な財政難、人材難に喘ぎつつ、日々の活動を続けているところ、次年度においても、是非とも継続して公募に申請したい。国からの予算面での支援があって初めて、今後の総ての展望が開かれる。

⑥ その他参考資料

受講生に対するアンケート等はない。